

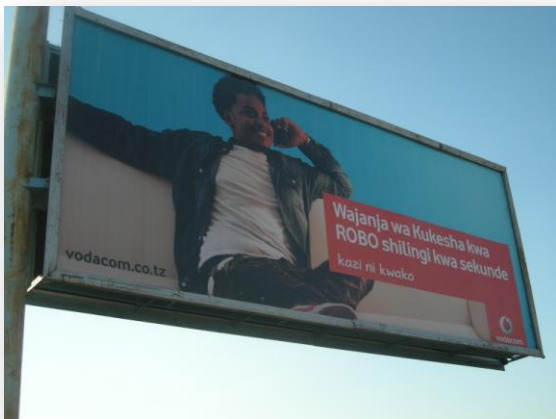
2012 年度 教師海外研修・タンザニア 写真レポート

かながわ開発教育センター（K-DEC） 木下理仁

開発途上国の生活文化と国際協力の実情について学び、開発教育の実践に活かすために行われている、JICA主催の教師海外研修事業に協力し、事前・事後研修の講師を務め、また、現地（タンザニア）に同行した。



ダル・エス・サラームには、大きなビルが沢山建ち、いわゆる雄大な「アフリカ大陸！」を感じさせるものは何もない。参加者は一様に、「カルチャー・ショックを感じないことにびっくり」していた。



携帯電話の大きな広告看板。今や、農村でも、大人の8割が携帯電話を持っているという。



地方都市にもネット・カフェがいくつもある。



新聞の売店。かなりの数の英語とスワヒリ語の新聞が発行されている。タンザニアの識字率は高い。



幹線道路を移動中、たくさんの野生動物を見ることができた。



バオバブの木の下で、バスを待つ親子。



青年海外協力隊の隊員が活動している小学校を訪問。カメラのフレームの中に飛び込んでくる子ども達。



先生にノートを見せて「丸つけ」をしてもらう子ども達。



村の風景。牛に荷車を曳かせる子ども達。



コカコーラの看板。皿にのっているのは、ティラピアのフライとウガリ。



JICAタンザニア事務所で、参加者とJICAスタッフでワークショップ。テーマは「タンザニアの国内格差」。「タンザニアの国内格差を感じるのは（どんなとき）？」「国内格差をなくすために必要なことは？」「国内格差をなくすためにJICAにできることは？」「タンザニアの国内格差をなくすために、私にできることは？」